

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 A棟・B棟)

事業所番号	0272501388		
法人名	社会福祉法人 奥入瀬会		
事業所名	グループホームあゆみの里		
所在地	上北郡おいらせ町東下谷地618		
自己評価作成日	平成23年6月30日	評価結果市町村受理日	平成23年12月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念のもと取り組んでいます。行事にはご家族様をお誘いし、ご家族様と利用者との関わりを大切にしています。また、地域の催しに参加し、地域との関わり方の継続も意識しながら、取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成23年9月6日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然に恵まれた立地条件にあり、特養やデイサービス施設が併設されているため、利用者が友人や知人と自由に交流することができる。また、利用者が社会的なつながりを継続できるよう、地域のイベントや馴染みの場所への外出支援を積極的に行っている。
職員は、サービスの向上に向けて、職員自身の気付きを大切に、サービスの改善提案や目標設定を行っている。また、利用者への影響を考慮し、開設以来管理者の異動がなく、利用者や家族との信頼関係を築いている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

※複数ユニットがある場合、外部評価は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部 項目		自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフと一緒に考えた基本理念を掲げているが、作成した時にいなかったスタッフもいるため、日々の申し送りで伝えている。	職員同士で話し合い、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成しており、事務室に掲示し、共有を図っている。また、理念の他に毎月の目標と介護目標も掲げて掲示しており、よりよいサービスを提供できるように取り組んでいる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の民生委員には、運営推進会議に出席して頂き、情報交換・意見交換をしている。	毎月開催される地域の市日に出掛けたり、敬老会参加、法人の夏祭りには高校生のボランティアが手伝いに来ている他、中学生の職場体験等の受け入れ保育園・幼稚園児との交流も行っている。また、渡り廊下で繋がったデイサービス利用者とも交流し、地域との繋がりを保てるような働きかけを行っている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者のプライバシーに配慮しつつ、幼稚園保育園児の訪問・小学生から高校生のボランティアの受け入れを行っている。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の始まりに、運営推進会議の目的を伝え、会議をすすめている。	会議では、自己及び外部評価結果や実施した行事、ひやりハット等の報告を行っている。また、認知症に関する勉強会の開催や施設見学等の要望も出され、意見や要望等を検討している。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、市町村職員・包括支援センター職員が出席している。また、法人の新聞を役所や病院に掲示している。	会議には、町村職員や地域包括支援センター職員が出席しており、法人の広報誌を役場に配布し、事業所の取組みを理解してもらうための働きかけをしている。

自己 外部		項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	鍵はかけない方針である。また、利用者が外に出た時は、さりげなくスタッフが付き添うように心がけている。	居室や玄関は施錠しない方針であり、職員も身体拘束の弊害について理解している。メロディ音や見守りにより外出傾向を察知した場合は、職員が付き添う等、支援している他、無断外出時には隣接している法人から協力が得られる体制となっている。やむを得ず身体拘束を行う場合は、家族の同意を得ると共に、記録を残す体制を整えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホーム内で虐待の定義を決め、取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全スタッフが理解しているわけではないので勉強会を行っていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	手順にそって説明し、家族に伺いながら行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置を行っている他、オンブズマンを利用し、利用者が話せる機会を作っている。家族には、特に変化があった場合やおこづかいを使用したい場合に電話連絡している。日々の様子や出納帳を月に1度送付している。	家族等が意見を出しやすいよう、利用者の暮らしぶり等を写真入りの手書きの便りで報告している。また、福祉オンブズマンを導入しており、利用者や家族が外部の人と話せる機会を設けている他、ホーム内に意見箱を設置している。また、年1回家族アンケートをとり、満足度を確認する等、出された意見等を検討する体制を整えている。	

自己 外部		項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務改善等は、スタッフ間で話し合いの上、行っている。	職員同士で話し合い、サービス向上のための改善提案や目標設定を行っている。また、運営者・管理者は、職員異動による利用者への影響を考慮し、少ない異動ですむよう配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2度健康診断を行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数によるもの、資格取得のためのもの、全体研修、外部研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	実践者研修の実習受け入れ等を通じ、お互いの施設の様子等について、話をする機会がある。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当ケアマネージャーからの情報収集や事前面談を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談や契約時に不安や要望等を伺い、対応できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	随時行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	意図的に得意な事を行ってもらったり、役割を持って生活していただいている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の気持ちへ配慮し、対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	全員ではないが、馴染みの理美容院に出かけている。	利用者がこれまで関わってきた人や場所を把握しており、お墓参りや馴染みの美容室への外出支援の他、家族・知人への電話、手紙や年賀状の作成を支援し、交流が継続できるよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	役割を持ってもらい、それぞれが活躍できるようにしている。また、トラブル時は、話をする機会を設け、仲間意識が持てるように声をかけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当法人が運営する別の施設の入居者と一緒に散歩がてら会いに行っている。		

自 外 己 部		項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	行っている。	センター方式を導入し、全職員が利用者の思いや意向の把握に努め、共有できるよう取り組んでいる。また、意向の把握ができてにくい場合等、必要に応じて、家族や関係者から情報収集を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族に生活歴を記入してもらい、支援に有効に取り入れている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当スタッフ、ケアマネージャーが中心となり作成している。	本人や家族等の希望や全職員の気づき・意見を基に、担当スタッフとケアマネージャーが介護計画を作成している。計画の実施期間を明示し、利用者の身体状況や希望等の変化に応じ、随時見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	行っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化（小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載） 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる				

自 己 外 部 項 目			自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館を利用したり、市日にも出かけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	行っている。	利用者のこれまでの受診状況を把握しており、利用者や家族が希望する医療機関を受診できる体制である。また、町の医療機関の往診を受けており、受診結果を家族に報告して共有化している他、家族・医療機関と情報交換を行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	何かあれば、相談・情報交換をして支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	必要時に話し合いを行い、支援している。	利用者の重度化や終末期の対応について、事業所としての指針を明確にしている。医療機関や家族と連携を図りながら、必要に応じて話し合う体制を整えている。	

自 己 外 部 項 目			自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全スタッフが救急救命の研修を受講し、定期的に確認の勉強会も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人のスタッフで対応できるように訓練している。	夜間を想定した避難誘導策が作成され、職員と利用者が一緒に訓練を行い、東日本大震災後には地震マニュアルに停電対策を加える等、災害に備えた対策を行っている。また、近隣住民が少ないものの、災害時には併設の法人職員の協力体制を整備しており、食糧の備蓄や発電機も確保している。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	否定せず、人生の先輩だという事を忘れずに対応するように、日々の申し送りで繰り返し話をしている。	利用者への言葉づかいが馴れ合いにならないように心掛け、気持ちの良いケアとなるよう月間目標にも掲げている。トイレ介助の際はバスタオルを掛ける等羞恥心へ配慮しており、守秘義務や個人情報の取り扱い等にも配慮している。また、家族から入居時に個人情報利用同意書をもらい、ボランティアの方々にも説明している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が、自分の気持ちを話しやすいように、一人ひとりに合わせて選択肢を提示する等、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にならないように心がけているが、そうになっていないことがある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入所前に通っていた馴染みの理美容院に通えるようにしている。また、外出の際には、お化粧をしている利用者もいる。		

自己 外部		項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に食事の準備から片付けまで行っている。また、苦手な食べ物がある利用者には代替食を準備している。	利用者が食事の準備や後片付けに参加しており、職員は利用者と会話をしながら食事をしている。また、苦手な食べ物には、代替品を用意し、食事を楽しめるように配慮をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄の自立に向けた支援をしており、おむつ使用の継続については随時見直しを行っている。トイレへの誘導時には職員が統一した声掛けをするように心がけ、他の利用者に気付かれないよう速やかに行い、トイレのドアが閉められない利用者のためにレースのカーテンで仕切り、バスタオルを用意する等して羞恥心に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品・水分の摂取をしたり、腹部マッサージを行ったり、運動を促したりし、それでも出ない場合は下剤や浣腸等を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的に入浴パターンは決めているが、希望があった時は入浴できるようにしている。	週3回入浴日を設定しているが、希望があれば、入浴日以外にも対応している。入浴を拒否する利用者には、時間をおいて声掛けしたり、清拭や足浴で対応している。	

自己外部		項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、居室だと落ち着かない利用者には、居間で簡易ベッドやソファで休んでもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コーヒー・お酒等、主治医と相談しながら楽しんでもらっている。		
49	(18)	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望を伺い、外出する機会を設けている。また、家族に相談し、孫の顔を見に出かけている。	町のイベントや市に出かけたり、自宅への一時帰宅や墓参り、行きつけの美容院等、利用者の希望に沿った外出を支援している。また、利用者の状態に合わせた支援を行っており、家族にも協力を呼びかけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全利用者に、財布を持ってもらっている。また、スタッフはその大切さを理解している。		

自己 外部		項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった場合、一緒に電話している。また年賀状等も出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行っている。	窓が大きく、明るい共用スペースにはソファや家庭的な調度品が置かれ、テレビの音量は適切で職員がたてる音等も騒がしくなく、利用者がくつろげる雰囲気である。また、利用者が所属する様々な委員会を設け、担当職員と一緒に得意なことを行い、季節を盛り込んだ飾り付けやカレンダーの製作等、工夫しながら行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間・食卓・廊下にイスがあり、それぞれ好きな空間で過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に呼びかけて、馴染みの物を持ち込むように働きかけているが、殺風景な居室もある。	入居前から使用していた筆筒や籐家具等を持ち込んだり、家族の写真を飾る等、その人らしい居室作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯機やポットに番号をふる等、工夫している。		